

新年度初めに想うこと

深瀬 和文

長い冬も終わり、いよいよ暖くなる季節がやってきてみなさんも買い物や散歩にと外に出やすい季節がやって参りました。

自分は去年の十月から病気の進行が速くなり、辛い半年でした。その代り良い体験をさせて貰いました。

初めは呼吸器を付けないと思っていましたが、この頃は自分の体なんだけど自分の体じゃないんだと想ように感じてきました。

それは先日、千葉県の照川さんのテレビを家族で見た直後、子供たちに言葉が通じなかったり体が動かなくなったり、・・・そういうお父さんでも生きていて欲しいかと尋ねたところ、それでも生きていて欲しいと子供たちは訴えていました。

それと毎日来てもらっている、ヘルパーさん、訪問看護師さん、ケアマネージャー、保健師さん達が、日々自分の体を心配してくれて尋ねてきてくれています。

このALSにかかって1番感じた事は、人の温かさや優しい気持ちなどを肌で感じえたことでした。

このALS協会もおなじだと思えます。

何回か交流会や会合に参加させて頂き、同じ病気の人達の出合いの中で自分だけじゃなく、同じ悩みを抱えて生きているのを知り、がんばってALSという病気に立ち向かって行こうと思えたのです。

自分の今の体験を通して、人間としての暖かさや、人を重んずる思いやりを持ちながら尚かつ、みんなが病気や介護の不安を少しでも取り除けるよう今年度はがんばっていきたいと思えます。